

和歌山県田辺市のご紹介



田辺市長 真砂 幸敏

紀伊半島の南西側、和歌山県の南部に位置する田辺市は、平成17年5月1日、5市町村が合併し、人口約80,000人、面積1,026と県全体の約22%を占める近畿で最も広い市域を有します。

田辺市は、先人たちの努力によって、古くから紀南地方の政治、経済、文化の中心地として栄え、今日では高速道路を核とする道路交通網の整備を始め、医療や福祉の分野においても重要な都市的基盤を多数有するなど、県下第二の都市として、さらには紀南の中核都市としての役割をしっかりと担ってきております。

また、市域には、美しい海・山・川の大自然を始め、世界遺産に登録された「熊野古道」や「熊野本宮大社」に代表される古い歴史や文化、日本三美人の湯として知られる「龍神温泉」や日本最古の湯といわれる「湯の峰温泉」などの温泉郷、温暖な気候と風土の賜物である梅・みかん、紀州備長炭などの特産物など、人々の心と身体を癒す豊かな自然環境や、多彩で魅力的な地域資源を数多く有しております。

【田辺市と熊野古道】

古代から中世にかけ、熊野三山の信仰が高まり、上皇や庶民に至るまで、旅人の切れ目がなく行列ができた様子から「蟻の熊野詣」と例えられるほど多くの人々が熊野に参詣しました。

熊野古道にはいくつかのルートがあり、多くの旅人が歩いたのは、京都から大阪・和歌山を経て田辺に至る「紀伊路」、そして田辺から山中に分け入り熊野本宮に向かう「中辺路」です。

そのほか、田辺から海岸線沿いに那智・新宮へ向かう「大辺路」、高野山から熊野へ向かう

「小辺路」、伊勢と熊野を結ぶ「伊勢路」、吉野・大峯と熊野本宮をつなぐ山岳修験道「大峯奥駈道」など、いくつかのルートがあります。

田辺は中辺路と大辺路の分岐点にあたり、中辺路ルートの大部分が田辺市にあります。田辺から熊野本宮に向かう中辺路、田辺から海岸線沿いに那智・新宮へ向かう大辺路、高野山から熊野へ向かう小辺路が、「熊野参詣道」として世界遺産に登録されています。



サンティアゴ・デ・コンポステーラ市 (Santiago de Compostela) の概要



〈サンティアゴ・デ・コンポステーラ市長〉
〈アンヘル・クラス・フェルナンデス〉

サンティアゴ・デ・コンポステーラ市 (Santiago de Compostela) はスペイン国、ガリシア州の州都であり、2012年の人口は95,671人と、ガリシア州内では5番目の人口規模の街となっています。

サンティアゴ・デ・コンポステーラ市には自治州政府 (Xunta de Galicia、シュンタ・デ・ガリシア) が置かれ、ガリシア州の政治の中心であると同時に、宗教的には大司教座が置かれています。

旧市街は1985年に世界遺産に登録されており、また、エルサレム、ローマと並ぶキリスト教三大巡礼地のひとつでもあり、世界遺産に登録されているサンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路の終着地には大聖堂があります。

市内にはガリシア地方で最も歴史のあるサンティアゴ・デ・コンポステーラ大学 (USC) があり、学生数約3万人は、スペイン国内でも有数の規模を誇ります。

【サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼道】

サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼道は、キリスト教の聖地であるスペイン国、ガリシア州のサンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼道で、主にフランス各地からピレネー山脈を経由しスペイン北部を通る道をし、1000年以上の歴史を持つ聖地への道は、今も年間約10万人がフランスからピレネー山脈を越えサンティアゴ・デ・コンポステーラを目指します。

サンティアゴ・デ・コンポステーラには、聖ヤコブの遺骸が祭られているため、古くからエルサレム、ローマと並んでカトリック教会で最も人気のある巡礼地であり世界中から巡礼者が絶えません。巡礼道では巡礼者は、その証明に帆立貝の殻を荷物にぶら下げます。最後のコースは、地面に古切れなどを敷きながら膝だけで歩いていく熱心な信者も多くいます。

徒歩によるスペイン横断は、イベリア半島内でもおよそ800kmの道程であり、長い巡礼を続けることは、人々にとって信仰と向き合う貴重な時間となっています。

※1993年に世界遺産に登録



サンティアゴ・デ・コンポステーラと田辺市の関係（まとめ）

日本とスペインの関係	
1613年10月 (慶長18年)	伊達政宗が支倉常長（はせくら つねなが）率いる慶長遣欧使節団を派遣
2013年6月～ 2014年7月	2013年から2014年にかけて、同年が慶長遣欧（けいちょうけんおう）使節団派遣400周年に当たることから、日本及びスペインにおいて「日本スペイン交流400周年事業」を開催する（2010年9月の日本スペイン首脳会談にて合意）

世界遺産関係	
1985年 (昭和60年)	サンティアゴ・デ・コンポステーラ旧市街が世界遺産に登録
1993年 (平成5年)	サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼道が世界遺産に登録
2004年 (平成16年)	紀伊山地の霊場と参詣道（熊野古道）が世界遺産に登録

和歌山県及び和歌山県内の自治体の取組経過	
平成10年10月 (1998年)	日本国和歌山県「熊野古道」とスペイン国ガリシア州「サンティアゴへの道」との「姉妹道提携協定書」締結
平成24年7月	和歌山県とガリシア州の友好親善関係と連携強化に係る覚書締結

田辺市及び田辺市熊野ツーリズムビューローの取組経過	
平成20年10月	サンティアゴ・デ・コンポステーラ市観光局と田辺市熊野ツーリズムビューローが共同プロモーションに関する協定を締結
平成24年9月	サンティアゴ・デ・コンポステーラ市副市長、サンティアゴ・デ・コンポステーラ市観光局取締役が田辺市長を訪問し、両市の「観光交流協定」を提案
平成25年4月	サンティアゴ・デ・コンポステーラ市長より「観光交流協定」提案の親書到着
平成25年5月	田辺市長より「観光交流協定を結ぶ方向で検討し調整を図る」旨を返書
平成25年7月	田辺市から「観光交流協定」の叩き台を送信（英語）
平成25年 9月14日	田辺市長とサンティアゴ・デ・コンポステーラ市長の会談【合意事項】 <ol style="list-style-type: none"> 観光交流協定の締結にあたり、「持続可能な観光地づくり」や「巡礼文化の世界発信」を大きな柱（テーマ・ビジョン）とし、それらを基に、今会談で出された意見を盛り込み、改めて内容を検討する。 協定の調印式は、来年（2014年）5月を目途にサンティアゴ・デ・コンポステーラ市において実施する。 来年（2014年）の熊野古道の世界遺産登録10周年にあたり、サンティアゴ市長に再来日の検討をしていただく。

■熊野古道とサンティアゴ巡礼道の共通事項

共に古から続く、歴史的な巡礼道をもつ町

両参詣道の起源は共に 10 世紀と言われ、古より多くの巡礼者が歩いた道

【サンティアゴ巡礼道】

813 年：現在のサンティアゴ・デ・コンポステーラで、ヤコブの墓発見

951 年：サンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼の最古の記録

※12 世紀には年間 50 万人もの巡礼者がこの地を訪れたと言われている

【熊野古道】

6 世紀に仏教、8 世紀に密教が伝来、神道の自然崇拝と仏教の浄土思想が一体→山岳信仰

907 年：宇多法皇の熊野御幸（ごこう）が、熊野詣の始まり

※熊野三山の信仰が高まり、「蟻の熊野詣」と例えられるほど多くの人々が参詣した

世界遺産に登録された 2 例のみの参詣道

数百キロにも及ぶ参詣道が世界遺産に登録されているのは 2 例のみです

【サンティアゴ巡礼道】

ピレネー山脈からすべて歩くと約 800km

【熊野古道】

紀伊路・中辺路：約 300 km、小辺路：約 70km、大辺路：約 120km、伊勢路：約 160km

巡礼道が集結する聖なる場所

サンティアゴ大聖堂には巡礼道が終結し、熊野本宮大社には熊野古道が集結します

【サンティアゴ巡礼道】

フランスの道、アラゴンの道、フィステーラの道、北の道など多数あり

【熊野古道】

中辺路、小辺路、大辺路、紀伊路、伊勢路、（大峯奥駈道、高野山町石道）

古の巡礼者が喜び、伏して拝んだ地

聖地を目の当たりにして、古の巡礼者は喜び、伏して拝みました

【サンティアゴ巡礼道】

大聖堂の 5 km 手前にある「モンテ・デル・ゴソ（歓喜の丘）」

巡礼者はここで初めて美しい聖地の姿を眼にした

【熊野古道】

熊野本宮大社の 3 km ほど手前にある「伏拝王子」

紀伊路・中辺路を辿った参詣者がここで初めて熊野本宮大社を見ることになる